

国語 第1学年 はをへをつかおう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う。学習の記録は、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音，拗《よう》音，促音，撥《はつ》音などの表記，助詞の「は」，「へ」及び「を」の使い方，句読点の打ち方，かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また，平仮名及び片仮名を読み，書くとともに，片仮名で書く語の種類を知り，文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。

単元の目標

助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)ウ）

語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。（B(1)ウ）

助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方を理解して文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ）	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ）	①助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全3時間（書3）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 教師作成の文「わたしは本をよむ」「学校へいく」を読み、語のつながりを確認する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 (本時)	○教師作成の文「わたしは本をよむ」「学校へいく」を読み、語のつながりを確認する。自分の文で助詞と句点を読み返し、直した理由を話す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することができる。(B(1)ウ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「声に出した音と、文に書く文字の違いはどこですか」 【めあて】助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う。 〈予想される児童の反応〉 ・「わたしわ」の文字を確かめたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「声に出した音と、文に書く文字の違いはどこですか」 教師作成の文「わたしは 本を よむ」「学校へ いく」を読み、語のつながりを確認する。自分の文で助詞と句点を読み返し、直した理由を話す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・「わたしわ」の文字を確かめたい。 ・だれがしたことか分からない。 ・ここで文を切ると読みやすい。	独自例「ぼくわ こうえんえ いきました」を声に出して読み、発音と助詞の書き方を分けて確かめる。文末に指を置いて区切りを確認し、児童自身の文にも同じ観点を使う。 想定する難しさ：間違い探しだけにして意味を確かめない、教師の正答を写して直す。 評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ここで文を切ると読みやすい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「声に出した音と、文に書く文字の違いはどこですか」。中央は、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまづきやすい所と手当て

間違い探しだけにして意味を確かめない、教師の正答を写して直す。この難しさには、独自例「ぼくわ こうえんえ いきました」を声に出して読み、発音と助詞の書き方を分けて確かめる。文末に指を置いて区切りを確認し、児童自身の文にも同じ観点を使う。評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録 直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。
比べて確かめたこと 最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（1年）「1 年上巻」87行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

